

## 基調報告『ガンカモ類の東アジアにおける個体群分布』

みやばやし よしひこ  
宮林 泰彦，雁を保護する会

### 【要旨】

極北部でのロシアの研究者と本会との共同調査や北米・東アジア各国の共同調査等の知見や情報から，東アジア地域（アラスカを含む）を渡るガンカモ類各種の個体群の生息分布・渡りの範囲について類型化して総論する．特に日本に渡来する群れに注目し，東アジアの他の地域に越冬する群れとの渡りの経路の違いや繁殖分布範囲の違いについて紹介する．

### 【構成】

- 1．個体群とは
- 2．個体群の識別
- 3．東アジア地域のガンカモ類個体群
- 4．集団間の交流
- 5．最近の研究の取組みと今後の課題

#### 1．個体群とは

個体群（population）とは，一定の範囲に生息分布する動物の集団を言い，同種の他集団と一定隔離されたものである．ある個体群の動物の数は，幼鳥の加入（recruitment）や死亡率，移入と移出によって変動する．渡りをするガンカモ類には，複数の個体群に分けられるものが多くあるが，一定の遺伝学的交流がある．たいていの場合，ある程度離れた複数の繁殖地からの個体が越冬地で混じるが，越冬地での番い形成によって遺伝学的交流が起る（Owen & Bkack 1990）．湿地条約（ラムサール，1971年）をはじめとする生物に関係する条約や国際的枠組みの多くのものは，このような個体群をひとつの単位として各々の取組みの対象としている．ガンカモ類について個体群としてとらえる作業は，ラムサール条約をつくりあげるための作業と平行して1960年代にロシアを中心に進められた（詳しくは Scott & Rose 1996 参照）．

個体群をひとつの単位としてその保全に取り組むためには，

個体群の生息範囲を明らかにする；

個体群内の多様性を明らかにする；  
他の個体群との交流の程度や交流の機構を明らかにする；そして，  
個体群の動態をモニタリングする，

ことが必要になる．

#### 2．個体群の識別

Bianki & Dobrynina (1997) のヒドリガモの標識鳥回収データの分析によって個体群を識別しようとする研究例を紹介する．

#### 3．東アジア地域のガンカモ類個体群

ロシア・米国・中国・日本等で得られている標識鳥の回収記録（Bianki & Dobrynina 1997, Zhang & Yang 1997, 山階鳥類研究所 1985）を中心に東アジア地域のガンカモ類個体群について俯瞰してみる．

日本で標識放鳥した鳥の6月における回収記録とロシアの幼鳥の回収記録を見てみると，日本に越冬するカモ類の主要な営巣地域と考えられるのは，ヤクーティア東部からロシア極東北部にかけての地域である（図1）．とくにコリマ川流域では，ヒドリガモ・オナガガモ・キンクロハジロ・スズガモが回収されており，わが国に渡来するカモ類の営巣地域として重要である可能性が高い．

マガモはカムチャツカ半島東部と西シベリア南部で標識放鳥された幼鳥が日本で回収されており，日本に渡来する集団の営巣地域が西シベリアまで広がることがうかがえる．一方，繁殖分布域がユーラシア大陸の東端までひろがっていないホシハジロでは，モンゴルの北の西～中央シベリアに日本に渡来する集団の営巣地域がひろがるものと考えられる．

ガンカモ類の多くのものは，風切をいっせいに換羽して飛翔力を失なう時期があり，この時期に非繁殖個体が安全な水域に集合することが知られている．大きな群れが安全に換羽期を過ごすことができる生息地は限られており，このためにさまざまな越冬地域からの集団が混合することがある．例えば，ヒドリガモの西シベリア（オビ川中流域）の換羽集合で標識したところ，地中海北部と中央アジアに越冬する集団がまじっており，回収された37例うちの1例だけであるが，東アジアに越冬するものもいた（図2）．

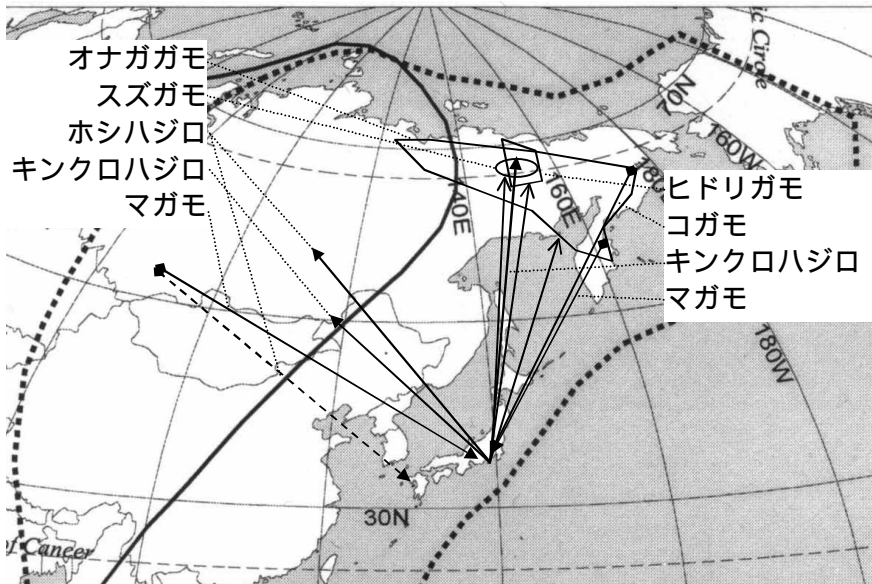


図1 . 日本で標識放鳥したカモ類の6月における回収記録とロシアの幼鳥の回収記録 .

#### 4 . 集団間の交流

わが国に越冬する集団を標識放鳥して、北米大陸にひろく回収記録があるのは、オナガガモである。ロシアの標識センター（Bianki & Dobrynina 1997）が、オナガガモのロシア国内の回収記録を詳しく分析しているが、ロシア極東北部において、日本からの標識鳥と、北米大陸各地（カナダ・米国）からの標識鳥の両方が広い範囲でオーバーラップして回収されている。その範囲はコリマ川河口部からチャウン湾にかけての北極海沿岸からアナディル川流域、南はカムチャツカ半島中部までである。どの範囲でどちらの集団が営巣しているのかは明かではないが、これらの地域で両集団が交流し、その結果として、日本から北米大陸へあるいは逆の越冬地の変更が生じるものと推測される。

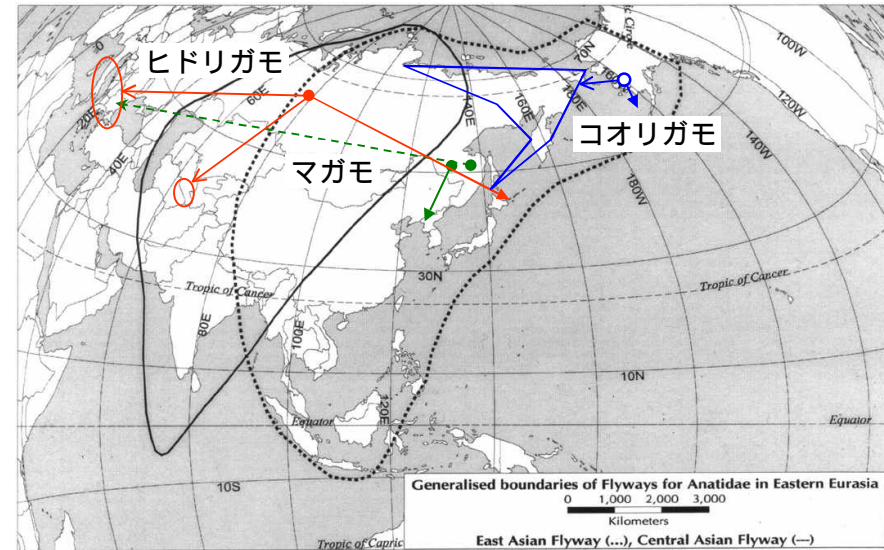


図2 . カモ類の換羽地や越夏地からの標識回収 .

#### 5 . 最近の研究の取組みと今後の課題

上記のほか最近の研究の取組みをいくつか紹介し、今後の課題を検討したい。